



	特徴	詳細
インプット	マルチスペクトル画像	☑ マルチスペクトルセンサーからの直下型画像をTIFFまたはJPEG形式で取り込み可能
	RGB画像	☑ 標準的なRGBセンサーからの直下型画像をJPEG形式でインポート可能
	事前に処理したマップ	☑ 他のPix4D製品で事前に処理されたオルソモザイクや植生指数マップをインポート (geoTIFFとしてインポート)
	ほ場境界	☑ ほ場境界 (1つ、もしくは複数の多角形) をGeoJSON、KML、Shapefileとしてインポートして、目的の領域に分析を集中させることができます。ほ場内のサブ境界や障害物のサポートも含まれています。
	ジオタグ付きの画像	☑ GPSタグ付きの画像を、位置情報注釈としてレイヤーに直接インポート (JPEGまたはTIFFでインポート)
	注釈	☑ 注釈 (ポイント、マルチポイント、ライン、ポリゴン) をレイヤー上に直接インポート (GeoJSON、KML、またはシェイプファイルとしてインポート)
	衛星データのインポート	☑ Sentinel-2衛星データで、ほ場のマッピングを強化。
ツールと機能	使いやすいインターフェース	☑ 農業従事者向けに開発された直感的で使いやすいインターフェース
	軽量かつパワフル	☑ 処理にインターネット接続やクラウドを必要とせず、ハイスペックでなくとも現場のノートパソコンで作業できる手軽さ
	ダッシュボードによるプロジェクト管理	☑ 主要作物情報を含めプロジェクト (農場、クライアント、組織) を管理
	正確な処理	☑ 高解像度数値表層モデル (DSM)、ジオロケーションの改善、標高変化の激しいデータセットに対応した「正確な処理」モード
	高速処理	☑ 空撮画像から高解像度の2Dマップを数分で生成し、現場のオフライン環境でも処理が可能
	GPUによる高速処理の強化	☑ 適切なGPUを利用することで、標準的なCPUよりも処理速度を大幅に向上。
	リグ相対補正	☑ 対応マルチスペクトルカメラ用のリグ相対情報によるバンドアライメント向上再計算オプション
	ラジオメトリック補正	☑ ほ場の境界線を作成またはインポートして、レイヤーを特定の関心のあるエリアにトリミング
	フィールド境界エディター	☑ ほ場の境界線を作成またはインポートして、レイヤーを特定の関心のあるエリアにトリミング
	インデックス生成ツール	☑ LCI、NDRE、NDVI、TGI、VARIなどの定義済み指標の自動生成
	指数計算機	☑ 保存して再利用することが可能な指標関数を入力してカスタム指標を作成
	ゾネーションツール	☑ 作物の健康状態データから1-7レベルに分類し、編集可能なゾネーションマップを作成します。スカウティングや場所を特定した農作業が実現
	ターゲット・オペレーション / 処方マップ	☑ スプレッドローン、トラクター、フィールドスプレーヤー用に、高度にカスタマイズ可能な可変レートおよびスポット散布処方マップを作成。
	比較ツール	☑ 異なるマップを分割画面またはダブル画面で比較
	注釈ツール	☑ 関心のあるエリアにタイトルや説明、ジオロケーション付画像を注釈に添付することが可能
	カウントツール	☑ 各クラスのオブジェクトを手動で素早くポイントカウント、合計カウント数、PDFレポート
	計測ツール	☑ 計測ツールで素早く距離および面積を測り、現場で分析
	統計情報	☑ エリアサイズ、平均高度または指標値、標準偏差などを含むレイヤーと注釈の統計
	高度なレイヤーの可視化	☑ 標準化を含めたヒストグラム値の範囲が調整でき、関心のあるデータ値表示のコントロールが可能
	PDFレポート生成	☑ PDFレポートエクスポートツールを使って全てのプロジェクト関係者とマップを共有し、円滑な連携をとる
	フィールド・インサイト	☑ 天候、土壌、作物の情報を組み込んだAIを活用した作物生育状況レポート
	エクスポートツール	☑ レイヤー、注釈、処方マップ (ISOXML、Shapefile、GeoTIFF) を、サイズとフォーマットを完全に制御してエクスポートできます。
	PIX4Dcloudでの共有	☑ PIX4Dfieldsのアウトプット (オルソモザイク、サーフェスモデル、インデックスレイヤー、アノテーション) をPIX4Dcloudに直接アップロードして共有する
パンシャープン	☑ パンシャープン機能でより高画質に	
マジックツール	☑ オルソモザイクやインデックスレイヤーから雑草や損傷などの異常を素早く検出・選択するAI支援選択ツール (Shapefile、GeoJSON、KML、PDFレポートとしてエクスポート可)	

アウトプット	オルソモザイク	☞	地図の解像度や品質を設定できるオプションを使用して、作物観察や評価のためにほ場のビジュアルマップを作成 (geoTIFFでエクスポート)。
	数値表層モデル	☞	灌漑、排水、浸食の管理に役立つ標高データ (geoTIFFでエクスポート)
	植生指数マップ	☞	植生が最もストレスを抱えるエリアを確認し、作物保護、作物生産ワークフローを支援するためのマップ
	ゾネーションマップ	☞	植生指数マップをより実用的なレイヤーに変換したマップ (Shapefile、KMLまたはGeoJSONとしてエクスポート)
	処方マップ	☞	農業散布ドローン、トラクター、フィールドスプレーヤー用に、高度にカスタマイズした可変レートおよびスポット散布処方マップをエクスポート (ファイル形式: ISOXML、Shapefile、GeoTIFF、KML)
	フィールド境界	☞	RTKデータを使用して精度の高い圃場境界を作成することで、農業をサポート。関心領域に集中して分析を行うことが可能 (ファイル形式: GeoJSON、KML、シェープファイル、およびJohnDeereにエクスポート)
	注釈	☞	関心エリアに注釈を加えることで、より価値のある、実用的な情報を伝達 (GeoJSON、KMLまたはShapefileでエクスポート)
	PDFレポート	☞	エクスポートされたすべてのレイヤーを含む目次、注釈用のサマリーページ (PDFとしてエクスポート)、フィールドインサイトが含まれます。
	統計情報	☞	レイヤーと注釈の統計情報はスタンドアロンファイルとしてエクスポート可能 (CSVエクスポート)
	スナップショット	☞	注釈を含ませることのできる現在のマップビューのスナップショット (JPEGまたはPNGでエクスポート)
	John Deere Operations Center	☞	John Deere Operations Center: PIX4Dfieldsからオペレーションセンターに空撮写真、作物健康マップ、圃場境界線、処方マップを直接アップロードできます。

言語	言語オプション	☞	英語、中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ウクライナ語、ポーランド語、チェコ語、ハンガリー語
----	---------	---	---

ハードウェアの仕様



CPU: クアッドコアまたはヘキサコアのIntel i5 (またはそれ以上のもの)



HD: SSD推奨される



RAM: 8 GB RAM (またはそれ以上)



GPU: 2GB RAMの内蔵または専用GPU (推奨: 6GB RAMのGeForce GTX GPU)



OS: Windows 11 / macOS Catalina (10.15) (もしくはより新しいもの)